

平成 29 年度

奥州金ヶ崎行政事務組合施政方針

奥州金ヶ崎行政事務組合

本日ここに、平成29年第1回奥州金ヶ崎行政事務組合定例会の開会に当たり、平成29年度の行政運営の基本方針及び主要な施策について所信の一端を申し上げ、議員各位並びに地域住民の皆様のご理解とご協力をお願いするものであります。

奥州市、金ヶ崎町の住民生活にとって欠かすことのできない社会生活基盤である業務を担っている当組合に求められる役割は、施設の安全確立と地域住民の皆様にご信頼される業務執行であります。

平成29年度は、より安全で安定的、効率的な業務執行となる基盤の整備に着手し、将来にわたって地域住民と共存する一部事務組合として持続可能な体制を確立するため、着実な業務推進を図っていく所存であります。

平成29年度一般会計予算は、新たな行政需要に的確に対応しつつ、経費の節減を行い、予算総額は30億9,432万円で、前年度と比較し2千6万6千円の減となりました。

今年度も、積極的な事業展開を実施していくこととしており、ごみ焼却施設長寿命化事業の推進、消防力整備計画に基づく基盤整備等を図り地域住民の社会生活基盤の整備を着実に進めてまいります。

また、懸案となっておりました農林業系廃棄物の焼却処理につきましては、本年度をもって処理が完了する見通しとなり、加えて奥州市内の側溝土砂及び金ヶ崎町内の薪ストーブ灰の処理についても、関係各位の特段のご理解のもと処理の道筋がつけられたことは、平穏な暮らしを取り戻す大きな1歩と考えているところであります。

以下、広域行政として当組合が平成29年度に重点的に取り組む施策について申し上げます。

始めに胆江地区衛生センターにおける取り組みであります。

昭和 37 年からここ水沢の仙人地区でし尿・ごみ処理事業をスタートして以来、宅地化が進む中で 50 年以上にわたって衛生センターの事業を継続できたのは、ひとえに地域住民の皆様方の特段のご理解とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

誰しもが喜んで操業を希望する類いの施設ではないだけに、広域行政の中核を担う施設の意義を深くご理解いただき、その都度、様々な課題に対する真摯な議論を地域の方々と重ねてきた結果としての今日があることを改めて肝に銘じ、引き続き衛生センターの安全確保に努力してまいります。

また、ごみ焼却施設の長寿命化工事が竣工しますと、引き続きこの場所で 15 年程度の稼働を予定していることから、今後は、胆江地区衛生センター各施設のあるべき将来像についても併せて検討を始めてまいります。

衛生センターの中核をなすごみ焼却施設であります。平成 28 年度に策定した「胆江地区衛生センターごみ焼却施設長寿命化総合計画」に基づき、本年度はいよいよその基幹的設備の改良工事に着手いたします。

工事のため平成 30 年 2 月以降は片炉のみの運転となることから、ごみの受入れ処理が滞らぬよう平成 29 年度においては定期整備工事の範囲を例年以上に拡大し、施設の安定稼働に万全を期してまいります。

工事期間となる今後 4 か年は安全第一で施工監理していくことは勿論のこと、工事用車両の増加による騒音、粉塵など、周辺地域の方々の暮らしに十分に配慮しながら進めてまいります。

最終処分場につきましては、焼却灰等に含まれる放射性物質の溶出防止を図るため、ベントナイト系遮水シート等を用いながら引き続き施設の安全確保に努めてまいります。

また、平成 28 年度から開始予定の奥州市側溝土砂並びに金ヶ崎町の薪ストーブ灰の埋め立て処分に伴い、地域住民の皆様の安心を向上させるため、放射線量の定点観測を土日祝日を除き毎日実施しその結果を適切に公表してまいります。

広域火葬場及び広域交流センターにつきましては施設管理受託者との濃密な意思疎通を図りより適切な施設の維持管理を行うとともに、住民の皆様が安心して快く利用できる施設の運営に努めてまいります。

次に広域行政の 2 つ目の柱となる介護医療等の取り組みについてであります。

初めに、介護認定審査判定業務につきましては、構成市町と緊密な連携を図りながら迅速・公正かつ適正に業務を遂行し、介護サービスを必要とする方々及びその家族の皆様の日常生活を支えていけるよう努めてまいります。とりわけ、平成 29 年度からは金ヶ崎町に続いて奥州市においても「介護予防・日常生活支援総合事業」がスタートする年であり、円滑な認定審査事務を進めてまいります。

次に、診療所の運営につきましては、胆江管内における夜間や休日の初期救急医療の確保のため、引き続き奥州医師会の協力を得ながら、休日、夜間診療所の運営に万全を期してまいります。

次に、広域行政の 3 つ目の柱となる消防業務についてであります。

平成 28 年に平成 32 年度を最終年度とする消防力整備計画後期計画を策定しました。計画の柱として、防火による焼死者ゼロ、救命の連鎖強化による救命率向上、広域連携体制の強化などの目標を掲げ、そのために必要な消防機動力の整備を予定しております。

とりわけ、平成 28 年 6 月から運用を開始した盛岡、北上との消防指令業務の共同運用につきましては、高機能消防通信指令システムの導入によって災害への効率的な消防活動が可能となるほか、維持管理経費の節減や効率的な指令業務職員の配置など、共同化によるメリットを生かした運用を継続してまいります。

次に、火災予防の業務につきましては、平成 28 年 3 月期には火災が多発しましたが、「火災ゼロ」をスローガンにその後の広報活動を強化したことにより 9 月期には火災ゼロを達成いたしました。引き続き広報活動を強化するとともに、出火原因に対応したキメ細かな火災予防活動を展開し、火災件数の減少に向けた取り組みを強めます。

また、住宅火災による死者の発生をなくすため、引き続き住宅用火災警報器の普及を促すととともに、設置義務化から 10 年が経過し、既存警報器の取替えの時期を迎えていることから、機器の交換等の適切な維持管理について住民周知を図ります。特に、ひとり暮らしの高齢者世帯については、関係機関と連携の下、火災予防の啓発に努めてまいります。さらに、防火対象物・危険物施設に対しては、査察計画に基づき立入検査を執行し、火災予防及び事故防止に努めてまいります。

次に、救急業務につきましては、高齢化社会の進展に伴う救急需要と高度化する病院前救護を円滑に実施するため、救急救命士の養成と救急隊員の育成並びに技術の向上に努めてまいります。

また、様々な機会をとらえて救命講習会を実施し、1 世帯に 1 人のバイスタンダーの養成を図るとともに、救命サポーターステーション認定事業所を拡大することで、「救命の連鎖」を強固なものとし、救命率向上につなげてまいります。

昨年の熊本地震や本県の台風 10 号災害などにみられるように、県内外で想定外の大規模で広域に及ぶ災害が発生しておりますが、これらの災害に機敏に対応できるよう県内応援、緊急消防援助隊の出動態勢に万全を期してまいります。なお、近い将来発生が懸念される首都直下地震や南海トラフ地震の備えとして緊急消防援助隊を 1 隊増やす予定としております。受援体制につきましても、県と情報の共有化を図り対応してまいります。

また、水難事故対応につきましては水難救助隊員の養成を、山岳遭難事故対応につきましては山岳遭難救助訓練を実施し、職員の事故対応能力の向上を図ってまいります。

以上のような消防業務を円滑かつ迅速、確実に遂行していくために、消防機動力の整備は不可欠となっております。

昨年度の江刺東分遣所の設置により、江刺区東部地域では救急現場までの到着時間が半減し、いち早く救命措置を施すことが可能となりました。本年度は、引き続き江刺消防署の消防ポンプ自動車と救急自動車を更新するとともに、水沢消防署庁舎の女性用トイレ等を整備し、女性消防吏員の活躍を後押しできる職場環境の改善整備を進め、災害や救急事案への迅速確実な対応によって、地域の安全安心の向上に努めてまいります。

広域行政の4つ目の柱となる胆江広域水道用水供給事業につきましては、本格供給の開始から4年目を迎え広域水道として重要な役割を担っており、住民の皆様のご日常生活に欠かすことのできないライフラインであることを再認識し、水道施設の適切な維持管理を行い、健全経営のもと、安全で安心な水道用水の安定供給に万全を期してまいります。

また、平成29年度からの3か年の用水供給料金については、現行料金に据え置くこととしたものの、料金改定の経過で明らかになった課題を解決する道筋をつけるため、経営アドバイザーの経営診断などの助言も得ながら、検討委員会を立ち上げ経営改善と健全化に努めてまいります。

以上、平成29年度の組合の基本方針と施策の主なものを申し述べました。

当組合の事業展開は、構成市町の分担金によってその運営が賄われており、負担すべき構成市町が、急激に進む高齢化と人口減少によって財政の縮小と硬直化が進んでいる中で、これまで以上に組合職員が創意と工夫を凝らし、業務を進めることが必要となっております。

当組合では、平成28年度から「人事評価制度」に取り組んでおり、職員の能力開発と人材育成によって組織全体の力を高めることとしております。

こうした取り組みを行いながら、事務職員並びに消防吏員が個々の能力並びに資質を向上させることで創意と工夫を凝らし、最小の経費で最大の効果が得られるよう、職員の英知を結集し、住民の皆様の期待と信頼に応えるべく渾身の力を注ぎ取り組んでまいります。

最後に、議員各位並びに構成市町の住民の皆様方の力強いご支援、ご協力をお願い申し上げまして、私の施政方針といたします。